JICA 教師海外研修　授業実践報告書

Viet Nam

学校名：新潟県上越市立雄志中学校

氏名：　中野　裕子

［担当教科：英語、
総合的な学習の時間］

- 実践教科等：総合的な学習の時間
- 時間数　：4 時間
- 対象生徒　：3 年生
- 対象人数　：56 人

1　単元名

ベトナムと地球規模の課題を想像し、将来の創造力に向けてグローカルな視点でこれからの私たちに何ができるか考えよう

2　単元の目標

・世界の多様な文化・生活を知り、類似点・相違点に気付き、世界への興味をもつ
【つながりを尊重する態度】

・グローカルな視点で考え、自分なりの意見を持って他者と対話し、自己の考えを再構築し表現する
【コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度】

・多文化やグローバル・イシューについて知り、JICA の支援、ODA の取組を理解する
【進んで参加する態度】

・地域貢献活動を通して、まちのよさだけでなくまちの課題を見つめ、課題解決に向けて創造する
【批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力】

3　資質・能力育成に向けた授業づくりの視点（国立教育政策研究所・2014）

1　意味のある問いや課題で学びの文脈を創る
2　子供の多様な考えを引き出す
3　考えを深めるために対話のある活動を導入する
4　考えるための教材を見極めて提供する
5　すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する
6　子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する
7　互いの考えを認め合い学び合う文化を創る

4　単元の指導について

（1）教材観

生徒をとりまく社会は、18 歳未満の子どものうち「子どもの貧困率」（2015 年厚生労働省）が 7 人に 1 人の割合であることや、新潟県でもベトナムなどのアジア諸国に企業進出する企業が増加している事実、海外に行かなくてもアジア諸国を始め、海外からの研修生や労働者が職場に増えている事実など、多文化社会となっている。急速に開発が進んだベトナムという国を例に取り、学習者には日本と世界の国・地域とのつながりを感じ、ベトナムの課題が日本の課題でもあることを知ってほしい。そして、地球規模の課題をグローカル（グローバルとローカル）な視点で考え、生徒の思考を深めていけたらと思う。

（2）児童生徒観

本校はキャリア教育を中核に小中連携の教育課程を編成し、郷土の偉人学習など総合的な学習の時間を通しての生徒を育成に力を入れている。本校から輩出した郵便の父・前島密（まえじまひそか）、岩の原葡萄園を開拓した川上善兵衛、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんの祖父で曾祖父犬養毅の外交官でもあった芳澤謙吉の三人である。偉人学習を通して、開拓の苦労や創造のアイディア、忍耐強くまちづくりし、日本の発展に貢献した姿に勇気づけられる生徒も少なくない。2年時の修学旅行で他地域に学び、3 年時で学区でのまちづくりの提案と実践を通し、将来の社会に寄与する態度や力を培っている。

英語の授業では Program 7 の国際協力に触れるところである。また、社会科では公民の教科書の最後に「持続可能な社会」に向けて考えを深める。生徒会活動としては、JRC（青少年赤十字）の「気づき、考え、行動する」の活動を実施している。３年生は、実際に「行動する」活動として、11 月に、地域貢献活動を行った。ゴミ拾い、ポイ捨て禁止や地域行事参加啓発ポスターの掲示、看板設置、草取り、校区内のパン屋の宣伝用チラシ配り、プランターの花植え作業、老人ホームでの高齢者の方とのふれ合い活動など実施した。地域の人からのフィードバックから「町内会長さんが喜んでくれて嬉しかった」という感想もあった。しかし、学級担任は「活動をしただけで考えに深まりはみられない」と述べており、活動したことと総合的な学習の時間の目標である「ふるさとに寄与する」とはどういうことか、まちづくりに関わるとはどういうことかについて、まだ考えを深めていない。

JICA 教師海外研修　授業実践報告書

（3）指導観

本単元では、ベトナムを含めた世界を共通点や相違点のクイズ形式で知ることで、日本以外の国・地域と肯定的に出会い、世界とのつながりを感じさせたい。開発による急な発展の状況や発展途上の国・地域の現状から、JICA の支援などについて理解させる。青年海外協力隊や現地の人の生の声から社会に向けたキーワードを提示し、グローバルな視点での知識から、地域貢献活動や総合的な学習の時間とのつながりで、ローカルな視点でまちづくりを考えさせたい。特に共生とは何かについて考えを深められるよう、役割演技（当事者意識）を通して、最後は個人が考えをもてるように展開したい。

2016（平成 28）年「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（中央教育審議会　第一次答申）では、（a）国際化の進展により異文化を尊重する態度と共に生きていく資質や能力の育成（b）自己の確立（c）コミュニケーション能力の育成の三つに留意し、「国際理解教育は、各教科、道徳、特別活動など」で推進され、「アジア諸国やオセアニア諸国など様々な国々にも一層目を向けていく必要」があると、国際理解教育の充実を述べている。各教科・領域の学びを効果的にデザインすることで生徒の思考力・判断力・表現力、対話的で深い学びを実現できると考える。クロスカリキュラムの視点（表１）で、学習者が教科と総合的な学習の時間を往還することで考えを深められる授業を構成したい。

生徒は、まだ現代社会を捉えられない義務教育 9 年目である。さまざまな生活体験、世界に一歩踏み出した体験は少ない。そこで、授業者が見てきた世界を疑似体験したり想像したりすることを通して、地球規模で多角的に考え、何を理解していて何ができるかを考え、想像力を鍛え、将来の社会と自分とのつながりから、どのように社会・世界と関わり生きるかを考え、将来の社会を創造する力につなげてほしいと願う。 外国人労働者や学校や職場、地域での多文化社会での共存について、対立場面からの葛藤や折り合いをつける意識など思考を深めてほしい。

表１　＜英語科教科書と国際理解教育の関連＞　＊取り上げた題材内容は授業者による

中心概念は、日本国際理解教育学会編著（2016）『国際理解教育ハンドブック』明石書店による

教科書学年・課	題材内容	中心概念
Sunshine 1 Program 4	NPO にペットボトルのキャップを送って発展途上国の子どもたちの命を救う活動に取り組む ワクチン予防接種	相互依存
Sunshine 1 Program 7	釧路沖のシャチウォッチングの生態　生物多様性　絶滅危惧種	希少性
Sunshine 1 Program 10	アメリカアリゾナ州　アメリカンインディアンの部族　カチーナ人形	文化理解
Sunshine 2 Program 3	ハワイ・マウイ島の charity walk	相互依存
Sunshine 2 Program 7	地球環境サミット　ガーナ　カカオ児童労働、中国　衣類大量生産　セヴァン・カリス＝スズキ　マハトマ・ガンジー　street children	人権
Sunshine 2 Program 8	トルコとの友好関係 トルコ船海難事故(1890)⇔イラン・イラク戦争	紛争
Sunshine 2 Program 10	ホームステイ　交換留学生　言語文化の特性・相違 異文化体験	文化理解
Sunshine 3 Program 1	物資の輸出入　野菜のルーツ　貿易　相互依存の関係	相互依存
Sunshine 3 Program 3	The 5 Rs　ゴミ問題	環境
Sunshine 3 Program 4	戦争　上野動物園　ゾウ　危険な動物の殺処分	希少性
Sunshine 3 My Project 8	伝統行事・文化紹介　ハロウィーン　お月見	文化理解
Sunshine 3 Program 7	山本敏晴　国際協力医師　宇宙船地球号	開発
Sunshine 3 Program 8	エネルギー問題　風力　火力　ソーラー	エネルギー
Sunshine 3 Program 9	パキスタンの少女　マララ・ユフスザイ　生き方　教育の大切さ 国連のスピーチ	人権

５　評価規準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
評価規準	・地球規模の視野に立って、将来に向けて今自分に何ができるかを考えている	・グローバルとローカルな視点で考え、自分なりの意見を持ち、他者と対話し、自己の考えを再構築し表現している。	・多文化やグローバル・イシューについて理解し、格差が生まれている現状を理解している。 ・JICA の支援、ODA の取組について理解している
評価方法	学習時の取組の様子・発言・発表・ワークシートの記述・感想の内容		

JICA 教師海外研修　授業実践報告書

６ 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい □教科との関連	授業内容
1	学校はどんなところだろう？ 	◆学校が通えないとどんなことが起きるか、想像する □英語科 *Sunshine 3 Program 9* *Education First: Malala's Story* 『世界一大きな授業 2017』 ローズマリー・マカーニー（2017）『すごいね！みんなの通学路≪世界に生きる子どもたち』 西村書店	『世界一大きな授業』をベトナムを含めて作り直したものを通して、次のことを考える ①文字の大切さと識字率 文字が読めないと、どんなことが起きるか想像する ②学校に行けないとどんなことが起きるか、考える　【派生図】 ③学校に行けるようにするためには、どうしたらいいか、想像する　【因果関係図】 （現状→影響→原因→解決） ④軍事費、教育費についての現状　【体験】
2	ベトナムってどんな国？ 	◆未知の国、ベトナムを想像する ベトナムと肯定的に出会う ○人の生活の営み ○教育の現状 ○まちの課題 水環境　ゴミ問題 □教科との関連：英語科 *Sunshine 2 Program 7* *If You Wish to See a Change* 児童労働　環境汚染　貧富	アジアの国の一つ、ベトナムに関心を持ち、日本と比較しながらイメージを広げる ①ベトナムってどんな国？　【クイズ】 ②写真から気付いたことを話し合う【フォトランゲージ】 ③国情報のデータから、ベトナムと日本について類似点・相違点を挙げる。【対比表】 同じ　違う ベトナムのイイネ　日本のイイネ ④上越教育大学原研究室『メガネ WS』 Ｑ自分がベトナムに転校したら Ｑ転校生がベトナムから来たらどうするか
3	日本の ODA の取組を知り、共生できる持続可能なまちづくりについて考える 	◆まちづくりで対立が起きたら、どうするか考える 雄志中周辺の写真 生徒会の取組 コミュニティ・スクールとの協力 ◆地球上で働く日本の人たちの内容や思いを知り、まちづくりで大切なことを考える □道徳　社会参画 公共の精神	①共生で大切なことは？　【ランキング】 ②住んでいるまちを想定して具体例の対立場面から因果関係図で考える （現状把握→影響→原因→解決） 場面：ゴミの出し方についての対立 ③青年海外協力隊／開発に関わる人が、海外でどんな取組をしているか学ぼう 環境とまちづくり　水環境　ハノイ市水環境改善事業　ゴミ問題　ホイアン市エコシティプロジェクト（熊本市）【フォト→pptx】 ④まちづくり（＝開発・発展）で大切なことは?
4	水とくらし 	◆水の大切さを知り、世界の水事情から生活を想像する ◆持続可能な開発目標	①生活の中で、自分がどんな時に水を使い、どのくらいの量かふり返る【ワークシート】 ②タムリさんの１日　【カード】 ③もし水が十分になかったらどんな生活か想像する　【派生図】 ④グローバル・イシューとSDGs（持続可能な開発目標）を知る　【カード】
5	開発・発展・援助とは？ 	◆開発することでどんなことが起きるか AとBの製品どちらかを選ぶ　POLYVAC 母子手帳 ◆それ（開発・援助）をすることは、みんな（相手・自分）にとって幸せなこと？ FIDR（NGO　団体：公益財団法人国際開発救援財団）のナムザン郡カトゥー族の地域活性化のための人材育成事業 □SC 参加型のワークショップ	①ワクチンについての資料Ａ・Ｂを読み、正解のない質問に理由を付けて意見を言う。「はい」「どちらかというとはい」「どちらかというといいえ」「いいえ」 思考力・判断力・表現力　【資料】 ②役割演技する　カトゥー族とFIDR（開発）側に分かれて話し合おう １　村長さん　２　長老さん　３　祈祷師 ４　若槻さん　５　FIDR のスタッフＡ・Ｂ ③それぞれの役割で大切にしたことを振り返って共有する （強み・価値の尊重、可能性の発見・探究、交渉術）コミュニケーションなど）【役割演技】 ④豊かさとは何か考える　【ワークシート】
6	あなたにとって大切なモノは何？	◆自分とモノ、世界とのつながりを感じ、相互依存の関係について学習する ◆グローバル・イシューとロ	①今週お世話になった人／モノ／コト 10 個 【リスト】 ②「相互依存度神経衰弱」『貿易ゲーム』 世界とのつながりカードで自分の生活の

		ーカル・イシューの両面で考える ◆SDGsについて理解する □教科の関連：英語科 *Sunshine 3 Program 7* *What is the most important thing to you?*	物が世界中の人から支えられていることに気付く　【アクティビティ・シミュレーション】 ③今最も大切なモノ／コトを一つ考え、なぜそれが大切なことなのか理由を考える【ブレインストーミング】 ④教科書の山本敏晴さんの取組を知る ベトナムでのホームステイ先の中学生の絵
7	地球のことを考え、私たちには何ができるか考えよう 	◆10 代で世界に向けて行動を起こした人たち *Sunshine 2 Program 7* セヴァン・カリス＝スズキ、マララ・ユスフザイ, クレイグ・キールバーガー『キッズ・パワーが世界を変える』フリー・ザ・チルドレン アクションのきっかけとは？ □道徳　国際理解	①ベトナムの歴史から平和について考える ②貧困とは何だろう　【貧困カード】 ③戦争の原因を考える ④負の連鎖を断ち切るにはどうしたらよいだろう　【派生図】 ⑤教科書を読んで、『宇宙船地球号』を知る ⑥何ができるか考える　【ワークシート】

7　授業事例の紹介

小単元名【　ベトナムについて知り、日本の ODA の取組からまちづくりの共生について考えよう　】

（1）　指導案

（ア）実施日時　11 月 30 日（金）第 2・3 限　（イ）実施会場　多目的教室（2 階）

（ウ）本時の目標

・アジアの国の一つを知り、どんな国か想像し日本とのつながりを考えよう

・共生とはどんなことか、他者と考えを深め自分の意見をもとう

（エ）指導のポイント

①ベトナムと肯定的に出会い、他の国・地域の教育や生活の現状を身近な話題と捉え、他者と考えを深められるように多様な学習形態を取り入れる

②JICA など開発・援助について考えられるように、ベトナムでの実体験を映像などで紹介する

③かつて日本が受けた他の人・国から援助や技術協力によって、今の社会基盤や教育や暮らしがあることを知り、一つの地球に人間が暮らすとはどういうことか考えられるよう深い問いを作る

（オ）本時の展開

過程・時間	指導内容	◆学習活動	指導形態	・指導上の留意点	◎評価 評価規準・評価方法
10 分	Warm-up	◆手拍子3～5グループ 同じ3つ、違う3つ	一斉	・授業者と学習者の緊張を緩和させる内容、心と身体をほぐす	前回との授業のつながりを意識しているか（観察）
5 分	Review【2】 	◆前時の復習 学校に行けないとどんなことが起きるか、できる/できないか 【前時の振り返りシート】	一斉	・日本国内も友人や地域、多文化である ・ベトナム（他の文化）と肯定的に出会うようなクイズにする	
15 分	Activity 1 【3】 【5】	◆ベトナムってどんな国？ベトナムと肯定的に出会う【クイズ】 〇人の生活の営み〇発展したまち〇教育の変化〇まちの課題（交通　水・衛生環境　ゴミ環境　児童労働） ◆撮影した写真から気付いたことを話し合う。　【フォトランゲージ】 ◆国情報のデータから、ベトナムと日本について類似点・相違点を挙げる　【対比表】 同じ　違う ベトナムのイイネ　日本のイイネ	班 班 班	・多様な考え、異文化との出会いに興味をもたせる □教科の関連：英語 *If You Wish to See a Change*　セバン・カリス・スズキ『地球環境サミット』マハトマ・ガンジー ・アジアの国のベトナムに関心を持ち、日本と比較しイメージを広げる。・ベトナムのよさにも気付く、目を向けられるようにする	
5 分	Activity 2 【1】	◆上越教育大学原研『メガネWS』 Q1　自分がベトナムに転校したら Q2　転校生がベトナムから来たらどうするか ◆持続可能なまちづくり、「共生」とは？　【ランキング】	個人 個人→班	・他の文化に置かれた自分と身近な話題から想像力を働かせ、自	◎自分が置かれた立場を想像し、自分の考えを書いている【思考・判断・表現】

30 分	Activity 3	◆住んでいるまちを想定して具体例の対立場面から因果関係図で考える (現状把握→影響→原因→解決) 場面：まちづくりの策定 住民の話し合い【ロールプレイ】		分の素直な感情と対峙し、どんな態度になりそうか書かせる ・総合的な学習の時間での地域貢献活動を思い出させる	◎自分の考えを書き、他と意見交流させることで自分の考えを見直している【思考・判断・表現】
20 分	Activity 4 【4】	◆地球上で働く青年海外協力隊/開発に関わる人が、どんな取組をしていてどんな思いをもっているかについて知る ハノイ市水環境改善事業　ゴミ問題：ホイアン市エコシティプロジェクト（熊本市）ベトナム平和村、トゥイアン障がい者センター　【フォト→pptx】 雄志中周辺の写真　生徒会の取組　コミュニティ・スクールとの協力	一斉	・ベトナムも日本も共通の課題であることを認識させ、課題解決に向けて対話や折り合いなどが大切なことに気付かせる ・ベトナムで働く日本の人々の思いやキーワードを伝える	
5 分	Reflection 【6】	◆まちづくり（＝開発・発展）で大切なことは？　A4紙に100字程度で「共生とは～である」について書く【個人の意見シート】	個人 → 班	転校生のQで想定した考えの本音と対峙しながらも、共生について自分なりの定義をもたせる	◎「共生」について自分の価値観をことばで表現している【思考・判断・表現】

（2）以下、（ア）～（オ）は授業後の分析

（ア）授業後、どんな気持ちか、振り返りシートの 9 つから 3 つ生徒が選んだ項目の変容（表 2）

驚いた（87.5%）、すごい（64.3%）、かわいそう（60.7%）、心配だ（48.2%）

⇒驚いた（73.2%）、何とかしなくては（41.1%）、何ができるだろう（50%）へ

1/2 時間目の授業を終えて生徒の振り返りを読み、本単元の目的は生徒が「すごい」や「自分には関係ない」という捉え方をすることではなく、生徒が自分に「何ができるだろう」「何とかしなくては」と考えるようになってほしいということであることを再考し、3/4 時間目の振り返りシートには後者の項目に置き換えて実施した。50%の生徒が当事者意識へと思考が働いたことがわかった。

＜表 2　生徒の気持ちの変容＞人数（%）1/2 時間目と 3/4 時間目で編掛け部分の気持ちを換えた

1/2 時間目	驚いた	すごい	かわいそう	腹が立つ	わからない	心配だ	自分には関係ない	納得できない	わくわくする
	49(87.5)	36(64.3)	34(60.7)	2(3.6)	6(1)	27(48.2)	0	2(3.6)	2(3.6)
3/4 時間目	驚いた	何とかしなくては	かわいそう	腹が立つ	わからない	心配だ	何ができるのだろう	納得できない	わくわくする
	41(73.2)	23(41.1)	12(21.4)	1(1.8)	17(30.4)	14(25)	28(50)	1(1.8)	5(8.9)

（イ）複数の生徒の振り返りシートの記述例（一部抜粋）

・もっと世界に目を向け　・世界のことを知りたい/考えたい　・世界の人たちと協力したい　・誰かの役に立ちたい　・他人事じゃない　・まわりに伝えていかなければ　・教育にお金を使ってほしい　・教育の不平等さ　・思ったことを言葉や行動にできることへのすごさに共感　・学校に通えない子どもがどのような生活を送っているのか気になった

感想から意見・願い・提案・疑問、そして今後の行動目標へ　記述例（一部抜粋）

・ベトナムの文化や交通の現状の違いや危ないところ　・教育の不平等を理解したが　・何とかしなくてはと思った　・地域がよくなるには　・共生するためには何ができるだろう　・一人一人の課題を解決してみんなが幸せに暮らせるには何ができるだろう　・話し合いで解決することは大事　・それぞれの文化や考え方の尊重や理解から共生しなければ　・日本で暮らす外国の人にも興味をもった
・みんな同じ地球人ということを忘れずにいたい

他教科との関連に関しての記述は、社会科や英語科との関連に気づいた生徒もいた。

（ウ）「共生」とは？　班活動からピラミッドランキングで対話の活性化（模造紙のまとめより分析）

（エ）『まちづくりの策定　住民の話し合い』ロールプレイ（模造紙の課題・悩みと解決策より分析）

（オ）授業参観者の感想（JICA 職員 1 名、大学教員 1 名、小学校現職院生 2 名、学年教員 4 名、他見学のみ校長、他学年教員 1 名）（記述分析）

（3）感想

ベトナムのまちづくりが遠い国の話ではなく、生徒の身近な問題として考える教材を心がけた。上越教育大学教職大学院に所属し今回の研修に参加したが、新潟県国際交流インストラクター事業にお

いて研究室で考案した『あなたのメガネは何色？』というワークショップの一部を使用し、「自国中心のものの見方」から「グローバルなものの見方」（小関　2011）をねらった。「自己」を「世界」の中に置き、マジョリティからの「まなざし」に晒されたときのマイノリティとしての「自己」と「自己」を「日本」というマジョリティに置き、マイノリティに対してどんな「自己」になり得るか、考えさせたかった。この問いを入れることで、生徒はベトナムと日本が国境を越えた地球上の自己として自分をとらえたのではないかと思う。ロールプレイでは対話を重視した。まちづくりのさまざまな立場として、悩みを聞いてもらい、解決を考えてもらう居心地の良さや自分事として解決策を考え合うという対話の必然性を仕組んだ。今後は ESD や資質・能力の育成の視点から 3 年間のカリキュラム構成を考えていきたい。

（4）使用教材

・教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）2017 年度版『世界一大きな授業』
・開発教育協会（2014）『若者と学ぶ ESD・市民教育・グローバル社会に生きる私たち』「まちづくり住民案の策定」
・上越教育大学教職大学院原研究室（2017）『あなたのメガネは何色？』新潟県国際交流インストラクター事業

（5）参考資料等

・研究代表者　角屋重樹、国立教育政策所　教育課程研究センター　基礎研究部（2012）『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕』
・日本国際理解教育学会（2016）『国際理解教育ハンドブックーグローバル・シチズンシップを育む』明石書店
・東京大学 CoREF『知識構成型ジグソー法』http://coref.u-tokyo.ac.jp/
・アマルティア・セン（2017）『グローバリゼーションと人間の安全保障』ちくま学芸文庫
・国際理解教育学会（2011）「国際理解教育　No.17」 小関一也『多元性・多層性から読み解くグローバル・シチズンシップーグローバルなものの見方』を基軸として一』pp47-54 明石書店

8　単元を通した生徒の反応/変化

英語科と社会科の教科の知識と関連付けて総合的な学習の時間で考えた生徒がいたことに驚いた。振り返りで問うことと次の授業の冒頭で前時の振り返りを共有し、振り返り記述を蓄積したことが生徒の気づきのポートフォリオ的役割を果たしたのだと思う。生徒の記述から、１／２時間目の教育の不平等と３／４時間目の学校を午前と午後に分けて通うベトナムの現状がマッチングし、深い思考となってなぜ学校がないのかという次の学習への新たな疑問が生まれていた。活動があると一見教室の集団は何かを成し遂げているようだが、一人一人の思考の変化まで見とれない。今回は各自が授業者を飛び越えて自律した学習を重ねる姿が生徒の発話と振り返り記述からも垣間見られ、効果を確認できた。活動の振り返り時間を確保することと学習者が意識できる記述の蓄積となるよう、工夫していきたい。

9　授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

生徒はベトナムという一つの国を知り、自分の今までと同じ所違う所など、知らなかった世界や当たり前を覆される事実を突きつけられた時、つまり異文化に遭遇したときの生徒の感情を引き出せたのではないか。また、世界の不平等という現実の具体例を知ることにより、何とかしなければ、何ができるだろう、と行動変容につながる意識が芽生えた。身近なまちづくりのロールプレイで他人事を自分のこととして考え、対話で解決することや様々な文化や様々な立場の人を理解する大切さを学習者は感じたと思う。本校の「気づき」→「考え」→「行動する」の「考え」まで進んだことは成果だ。この「行動する」を、どれだけ今後の教育活動の中で具体的行動を体験させ、変容の見取りや長期的単元構成の過程とその後の追跡調査が国際理解教育の一連の流れであり、単元構成の課題であると実感した。

10　教師海外研修に参加して

旅をする目的として教材を探し、ベトナムをきっかけに子どもたちへ地球課題に立ち向かう力を育成する授業を展開する、20 ヶ国以上旅をし滞在した自分にとって、そんな旅は初めてであった。

ベトナムへ行くことが決まってから、ベトナムとのつながりが感じられる地元の新聞の見方も変わった。ESD の視点でどんな記事が集まるか考えるようになった。また、グローカルな視点を探し、新潟県の小中高で交流があること、ベトナムで『土地収用に「農民一揆」』、開発が進み『不足する経営幹部』、『日本式教育熱いベトナム』、『ベトナムの市場最新動向セミナー』と新潟県だけでもベトナム進出の企業が増え続けている。経済重視のグローバル化は開発を進め、格差を生むという現状もベトナムで目の当たりにした。途上国ではなくもはや中進国であるというベトナムの今と、どこかのどかな古来の時間が流れるようなベトナムらしさもホームステイをすることで体感することができた。

外国語科の授業では、教材をツールとしての英語学習で終われない自分がいた。旅の写真や ALT と表面的な異文化紹介でもない、世界の偉人や音楽の紹介だけではない、何か自分の授業でカベにぶつかっていた。言語教育における「ことばとその背景にある文化の涵養」とは何か。教科の指導だけでは展開できない、教科のつながりから新たな展開を生み出すような生徒の思考を活性化させるようなダイナミックな学習展開を挑戦したかった。そして今回、思考の活性化は何の為かということをさらに見出せた。目的の一つは誰もが想像できない未来で生きる子どもに教育で力をつけるということだ。

外務省が有名芸能人を起用して宣伝した SDGs。研修で SDGs のバッジを頂き、SDGs からの単元構成、カリキュラムを今後も考えていく。今回の研修とほぼ同時に、自宅のとなりに家が建つ過程に遭遇し、ベトナムからの研修生に出会ったことも大きなつながりに感じた。

この研修の機会に、JICA のスタッフの皆様だけでなく、研究機関の方々や校種も地域も違う様々な教師に出会い、貴重なつながりを得た。このネットワークを大切にし、何よりもこの体験を子どもたちへの教育に還元し今後も継続して ESD に邁進することが持続可能な実践であると考える。